

平成30年度事業計画書

公益社団法人 劇場演出空間技術協会

平成30年度の事業活動は、平成27年度に改正した組織体制にて、新たな役員を選任して事業を推進する年度となる。急激な国際社会の変動を確実に捉え、新しい潮流を敏速に取得し本会の公益事業に反映する。不特定多数の国民のために、定款第4条に掲げる公益社団法人としての事業活動を余すところなく実行する。本会の会員が、JATETの存在意義と会員である事を実感し、誇負できる公益活動を活発に行うとともに、本会の活動を積極的に全国に向けて訴求する体制を強化する。

平成30年度に実施する具体的な事業計画は次の通りとする。

1. 会議

1) 総会

平成30年5月24日（木）ホテルローズガーデン新宿に於いて開催予定。

協会の最高機関として、定款第52条(事業報告及び収支決算)に則り平成29年度事業報告、収支決算報告に関する承認決議を行う。平成30年度役員改選の件につき、定款第15条(権限)第1項に則り、立候補者1人につき1議案として選挙を実施する。また、第51条(事業計画及び収支予算)に則り平成30年度事業計画、収支予算書の報告を行う。

2) 理事会

定例理事会を年4回開催し、協会運営に関する重要事項を審議し、業務の執行を決議する。

2. 委員会

1) 事業執行連絡委員会

定款第58条(委員会)に則り、理事会の諮問機関として、執行理事及び部会長で構成される事業執行連絡委員会を毎月1回、年12回開催する。年間事業計画に基づき理事会で承認した事業を執行し、理事会と部会の緊密な連絡を諮る。

3. JATET部会計画

平成30年度における所属各部会の主たる事業計画は次の通りである。

1) 教育研修部会

劇場、文化施設の繁栄に努め、公益社団法人として社会貢献できるように取り組む。

[事業計画]

(1) 部会を原則月1回開催し、新設、改修された劇場、施設の情報収集する。

(2) 新設、改修された劇場、施設に対し、施設見学会を年3回を目標に開催する。

見学会を開催することで、施設建設の工夫などみどころを建設に関わった方たちから聞き、施設の関心を高めるとともにこれからの施設建設の向上に貢献します。

〈見学会候補施設〉

久留米シティプラザ（前年度より持越し）

久留米市中心市街地の六ツ門地区に開館した文化交流施設です。老朽化した久留米市民会館に替わる文化施設としての機能、医療や企業の発展・交流を促進するためのコンベンション施設としての機能、そして、中心市街地活性化の役割を担う中核的施設としての機能を併せ持った施設として、「憩いと賑わいが調和する『文化』『活力』創造空間」という基本理念に基づき整備されました。

文化施設は8番街区に位置し、ザ・グランドホール、久留米座、Cボックス、スタジオがあります。ザ・グランドホールは1,514席の客席を確保した4階層構造で、音響性能を重視した音楽主目的の多機能ホールです。久留米座は399席の客席を持ち、ジャンルを問わずさまざまな催しが可能な中規模ホールです。Cボックスは練習施設としても、客席を設置して公演会場（最大144席）としても利用できるスペースです。スタジオは4室あり、振動や音漏れを最小限に抑える構造になっています。

日本青年館ホール

1979年に改築した日本青年館を解体、敷地を明治神宮野球場前に移し、2017年にグランドオープンした劇場です。地上16階、地下2階建ての日本青年館ホテルに併設しています。1,250席のコンサート、講演会などに使用される多目的ホールです。

札幌文化芸術劇場

2018年10月、大通公園にほど近い札幌市の中心部に開館する劇場です。「札幌市文化芸術交流センター」と「札幌文化芸術劇場」が併設する札幌市民交流プラザの中にあります。客席は3層バルコニー構造の2,300席の劇場です。オペラ・バレエなどの舞台芸術に対応できる北海道初の多面舞台を備え、幅広い演出を実現できます。また、音響反射板を使用した各種コンサートに加え、大規模な会議や式典など、さまざまなジャンルの催しが可能です。

- (3) 見学会が開催された劇場、施設を JATET ジャーナルで紹介し、最新の劇場技術、リニューアルの実例等を全国に無料にて提供をする。
- (4) 前年度、スタジオの見学会は好評を得たため、今年度もスタジオ、仮設劇場、制作場など劇場施設以外の新たな見学先を模索する。建築・設備の見学だけでなく、一般には公開されない施設を見学することで、設計事務所やゼネコンの方たちの新たな設計、施工への発想を促し、新しい劇場、演出空間の建設に役立てる。

2) 建築部会

部会を原則月1回開催し、次に掲げる調査研究を実施する。

- (1) 建築部会では平成21年度に、「劇場・ホールの可変」をテーマに劇場・ホールの重要な要素である可動可変に着目し、可動可変を中心とした劇場演出空間技術の推移、ターニングポイント、今後の方向性、各分野相互間の問題点などについて探り、今後の舞台技術の方向性を探った。平成30年度は、このテーマについてその後から現在に至る動向について調査研究を行う。その他、劇場の可変について注目すべきテーマを探り、平成21年度の調査手法を活用して同様の調査研究を行う。

3) 機構部会

部会を原則として月1回開催し、以下の活動を行う。

- (1) 舞台機構関連の JATET 指針、規格等の見直し、改定
以下の指針の見直し、改定を行う
イ. JATET-M-5090 舞台機構設備機器保守点検時における安全作業指針
ロ. JATET-M-6040-1 舞台機構設備の運用操作の注意事項
- (2) 演出空間内での仮設持込み機器の扱いについてのガイドラインについて検討する。
- (3) 指針、ガイドライン等の解説を JATET 誌、JATET ジャーナル等に掲載するとともにホームページ上で公開し、他の専門分野や施設管理者に広く活用していただく。
- (4) JATET の事業において機構分野の分担・協力をする
JATET 技術展、セミナーにて舞台機構関連の技術や指針について発表を行う。

4) 照明部会

部会を隔月開催すると共に、下記の調査研究会を必要に応じて随時開催し、主として次に掲げる項目をはじめ、懸案課題の具体的な解決を図る。

(調査研究テーマ)

- (1) JATET 安全手帳作成に関して、照明部会として演出照明設備に関する安全注意事項を取りまとめる。
- (2) JATET 誌の発行に関して、照明部会としてテーマの設定及び編集に協力する。
- (3) JATET フォーラムが開催される場合は、照明部会として参加、協力をする。
- (4) 「D型 30A 接続器の規格」化及び「照明用持込機器用電源盤の規格」化の検討
近年 220V 機器も大容量化の傾向にあり、持込対応として持込機器用電源盤への 220V 接続器常設も要望が高まるものと思われる。将来の接続器の混乱を避けるうえでも D型 30A の接続器の規格化の検討

を行う。

上記に伴い設備指針の概要を基本とし、「照明用持込機器用電源盤の規格」の具体的な設計基準と規格化の検討を行う。特に持込機器電源盤に関しては、他の部会との横断的な検討が必要と考える。

(調査研究会)

(1) LED 演出照明設備調査研究会

劇場演出空間における舞台照明設備は、従来の白熱灯光源を調光電源で制御する方式から、LED 光源を制御する新たな方式へ変化しており、照明設備の運用面や設計面の考え方も変化していくことが考えられる。JATET 照明部会の研究会として、このテーマについてユーザとメーカーが討議することで知識の共有を図り、これからの設備のあり方について調査研究を行う。

舞台照明設備の電源系設計について、運用上の課題や将来性などから、今後の改修や新築における照明電源の考え方を主体に検討し、安全確保と技術の向上に努めていく。調査、研究の経過に応じて、施設、設備の見学会開催も検討する。

平成 30 年度も昨年度に引き続き研究会を開催する。

(2) 演出空間用 LED 照明器具表示規格研究会

イ. 平成 29 年度に行っていたカラーLED 照明器具において、ハロゲン+カラーフィルタでの色度の再現を行うための調光レベルの公開について引き続き調査研究を進める。

ロ. 演出用照明器具の明るさについての考え方の統一とともに、フィールド角やビーム角などの特殊な用語についてもガイドラインなどで定義することを検討する。

5) 音響部会

部会を原則として隔月開催、作業部会を随時開催し、以下の活動を行う。

(調査研究テーマ)

音響設備に関する最新かつ有用な情報を幅広く収集し、JATET 規格として取りまとめる。また、その内容を JATET フォーラムにおいて発表する。

(1) 音響設備電源の要件並びに電力需要に関する調査研究

イ. 過去に協議された内容及び資料の取りまとめを行う。

ロ. 音響専用電源及び接地に関し、変圧器メーカーなどの専門家を招へいし、部会員を対象とした勉強会を実施する。

ハ. JATET 誌 83 号のテーマ「劇場・ホールにおける持込み器材、機器の対応」について音響部門として、持込機器への電源対応等について現状の問題点、今後対応すべきポイントを取りまとめる。

(2) 劇場等演出空間用音響設備の劣化診断・適正更新時期判定プログラムに関する調査研究

劇場等演出空間施設の音響設備について、劣化診断を行うことで適正な更新時期を判定するためのプログラムに関する調査研究を実施する。

(3) デジタルオーディオネットワークの世界的な動向に関する調査研究

オーディオネットワークの最新動向を継続的に収集するとともに今後増えてくるとされる映像演出などへの音声信号の受け渡し方法について調査研究する。

(4) 「JATET 安全手帳」の取りまとめに伴う、音響部門における安全留意事項の調査研究

JATET 全体の事業として計画する「JATET 安全手帳」の取りまとめに伴い、音響部門での安全に関する留意事項を取りまとめる。

(5) 舞台連絡設備指針改定に向けた調査研究

平成 7 年に JATET-S-5030「劇場・ホール舞台連絡設備指針」が発行され、その後、機器や信号伝送方法等の進歩がなされたが、規格の内容が現状に合わせ改定されていない状況である。今年度は最新の連絡設備機器やインフラ及び今後連絡設備に求められる事項について調査研究する。

6) 映像部会

月1回の部会及び研究会の開催を目標にし、関連情報の収集および会員への情報発信、相互連携に注力することを目標に、映像部会セミナーの開催とともに、ホール・劇場等への機材持ち込みにおける運用状況の調査を実施する。

(調査研究テーマ)

技術状況

映像技術を取り巻く状況は、デジタル化の急速な進化とともに、放送・通信の融合が進み、ネットワーク技術との連携によるメディアの構造的な変革が始まっている。次世代放送システム「4K/8K」スーパーハイビジョン放送は、2018年12月には、衛星放送による実用放送が開始される。リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの中継放送では、全国各地でパブリック・ビューイングが行われ、多くの人たちが次世代の映像環境を体感した。この動向は、劇場演出空間における映像システムの展開にもおよび、高精細映像・音響システムのデジタル化やネットワーク化そしてIP化が急速に進んでいる。「技術の進化とともに、劇場演出空間においても、新しいビジネスモデルを創出する。」を、中心的な研究テーマとして今年度も部会活動を積極的に推進する。

JATET技術展2018におけるセミナーでは、「劇場・ホール等の映像設備デジタル化、ネットワーク化への課題と対応」をテーマに、デジタル映像の遅延（指揮者モニタの検証）、演出空間での仮設設備におけるデジタル通信ネットワーク及び光ケーブルの活用、そして来るべき8K時代の劇場・ホールからの情報発信（パブリック・ビューイング等）について研究報告を行った。更に、8K映像の魅力と舞台演出の可能性、そして、高性能プロフェッショナルメディアネットワークによる音声・映像データ転送など、先端技術に関するセミナーを行った。これらの研究成果をさらに深めるとともに、JATETの活動を広く展開することとする。

今年度の研究会テーマ（予定）

「技術の進化を捉え、劇場演出空間に新しいモデルを創出する」

- (1) 外部講師によるセミナーを開催。最新情報の取得および取り組むべき課題を議論、映像部会から広く情報発信を目指す。
 - イ. NHK：4K/8Kに関する最新技術の状況と、オリンピックに向けた取り組み、パブリック・ビューイングへの展開
 - ロ. 高性能プロフェッショナルメディアネットワーク技術の動向
- (2) 「劇場・ホールにおける持ち込み機材、機器の対応」に関する調査研究
機材を持ち込み運用している企業および劇場、ホールでの対応状況等について現状調査
イ. ホール・劇場への持ち込み機材の運用状況調査

7) 広報部会

部会を隔月1回開催し、以下の活動を行う。

- (1) JATETとその活動についての情報発信を図る。
JATETの持つ多くの劇場演出空間についての情報や人的資源を、広く社会のために資する広報活動を展開し、社会のニーズを調査し、JATETとその活動範囲の拡大と活性化を図る。
必要に応じてJATETリーフレットの改訂、英語版の作成を検討し、JATET安全手帳の普及等へ協力する。
- (2) 公益法人としての広報活動の調査研究をする。
- (3) JATET全体での事業について、広報分野を担当し協力する。
JATETの重要な広報媒体であるJATET誌の編集に際して、その内容がより読みやすくかつ魅力的なものであるよう、編集担当部会に協力を行う。また、JATET主催行事の運営に協力する。

4. 国際交流

定款第4条（事業）第6項「内外関連機関・団体等との交流」に基づき、OISTAT JAPAN及び韓国産業技術試験院（KTL）との交流、連携をより一層強化する。

5. 国内交流

定款第4条（事業）第6項「内外関連機関・団体等との交流」に基づき、劇場演出空間施設とこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する関連機関・団体等との交流を促進する。

6. 発刊物

1) 機関誌JATET

機関誌JATETを年2回程度発行し、JATETが創立以来行ってきた事業や研究成果を広く社会に訴求する。また、各部会で研究、調査している最新技術や最新情報を広く社会に紹介する。

2) JATETジャーナル

JATETジャーナルは教育研修部会が実施する劇場施設見学会と連動し、ホームページ上で電子媒体として本年度は3回程度発行し、最新の劇場演出空間及びリニューアルされた劇場演出空間を広く全国に紹介する。

3) JATETニュース

JATETニュースは、最新のJATET情報や関連団体の活動を速報として、毎月1回を基本に電子媒体として発行する。

4) JATETリーフレット

公益法人としてのJATETの設立意義とその活動について広く社会に周知し、より多くの会員を獲得するため広報部会が作成したリーフレットを普及させる。

7. JATETマークの改正と普及

JATETマークは、平成28年3月末で照明関係全社の契約が終了し、照明各社は現行のマークをそのまま使用している。他の技術系部会もJATETマークが採用可能か検討を進める。公立の劇場ホールからは、舞台設備にJATETマークが取り付けがあれば、使用上の安心感が増加するという意見が寄せられている。照明以外の他の分野に応用が可能か否かを研究し、結果を公表する。

8. JATET安全手帳の作成と普及

演出空間全体として必ず必要となる設備、機材の取り扱いに関する安全注意事項をまとめたものがない。舞台設備メーカー取り扱い説明書に記載の安全に関する注意事項を整理し、共通項目と各分野独自の注意事項をまとめたJATET安全手帳を作成する。昨年度は、照明部会が照明器具編としての安全手帳に関する案を提示したが、これを参考に会員各社で使用している保守点検作業時の安全事項などの要領書、マニュアルを利用して取りまとめを行う。

9. 舞台設備に使用する持込用仮設電源に関する調査研究

昨年度は以下に示す通り、舞台設備に使用する三相3線式電源に関する調査研究を行う計画をした。舞台機構、照明、音響などの設備機器用電源の電気方式は従来100V、200Vの供給には、電技解釈に規定された対地電圧150V以下の制限から、単相3線式や三相4線式が用いられており、舞台機構の電動機や一般動力電源として三相3線式での配電が用いられている。昨今、施主、設計事務所、コンサルタント側から舞台持込設備用として三相3線式電源を要求される場合があり、その場合の設備の工事内容、使用対象機器、使用時の安全対策、電源盤上の表記など、三相3線式電源を取扱う場合の安全性に関する調査研究を開始するとしていた。しかしながら三相3線式に限らず、舞台設備としての仮設電源盤を検討することが必要との観点から、テーマを舞台設備に使用する持込用仮設電源に関する調査研究として、部会を横断した作業部会により調査を開始することとした。

以上